

### インフラを整備し、インドの人々に生活を潤す水を供給したい



インド事務所  
福田 千尋  
FUKUDA Chihiro

大学卒業後、2003年に国際協力銀行に就職。総務部、開発第2部、中国への語学留学、外務省出向、東南アジア部を経て、2011年12月から現職。

水不足に直面しているインドで、円借款による水分野の支援に取り組んでいるインド事務所の福田千尋さん。上下水道の整備を通じて、より多くの人々に水が届くよう支援している。

#### 古代遺跡を通じて途上国に関心を持つ

子どものころから、古代遺跡に興味がありました。なぜその場所に文明が興り発展したのか、そしてなぜ滅びたのか…。歴史を振り返ると、世界はすべて栄枯盛衰のサイクルで動いていることが分かります。その軌跡を自分の目で確かめたいと、学生時代に旅行した国は15カ国以上。インド、エジプト、ヨルダン、メキシコ、ベトナム、カンボジア、ラオスなど、開発途上国と呼ばれる国も訪れました。

途上国では、街の熱気や人々のエネルギーに魅力を感じましたが、電気が通っていないかったり、安全な水を手に入れない現実がありました。一方で、かつてその国が栄華を誇った証しとして、古代遺跡がありました。ポテンシャルがあるのに生かしきれない。そんな国々の経済発展を、日本の経験を使って支援したい。そう思い、国際協力銀行（JICA）に就職しました。

#### 植林を効率的に進めるための工夫

JICAでは、中国での植林事業を担当

しました。内陸部の農村では、過剰な家畜の放牧や森林伐採により、北部では砂漠化、南部では洪水被害が発生していました。特に砂漠化による黄砂は日本にまで被害が及んでおり、その防対策として植林事業を支援することになりました。中国では国有の土地でもそこに住む人々が使用権を持っているため、植林をするにも住民の協力が不可欠です。そこで、森林保全と彼らの生計維持を両立するため、換金性が高い作物を収穫できる木も植えることにしました。こういった経験から、開発とは、その国の社会の仕組みや人々の生活スタイルを考慮することが基本だと学びました。

#### 発展する水分野の開発をサポート

現在はインド事務所、浄水・下水処理場、水道管といった水分野のインフラ整備や技術協力を担当しています。

工事に必要な資金はJICAが円借款を通じて貸し付けますが、土地の取得や工事を行う業者の選定などはインド政府が行います。インドは市民社会の声を重視する民主主義国。例えば水道管の敷設工事では、その地域の住民に納得してもらえよう説明します。たとえ理不尽

な意見があっても耳を傾け、最後の一人まで粘り強く交渉します。必要以上は時間がかかるとも多いため、それがインドらしさでもあります。彼らの文化を尊重し、事業が円滑に進むよう、業者の選定や事業の進め方についてインド政府の相談に乗ったり、解決策を協議するのが私の仕事です。

インドでは急激な都市化により水の需要が増えていますが、上下水道整備が追いついていません。また、水源が限られており、漏水対策や下水の再利用など、水分野はまだ改善が必要です。近年、日本の知見を生かした水ビジネスの海外展開が注目されています。将来はインドでも広がるよう、日本政府や企業、地方自治体などの協力的体制を積極的に構築していきたいと考えています。



フィールド調査でインドを訪れた日本の大学生と下水処理場を訪問



日本の国土交通省やインド都市開発省などが出席し、インドの都市開発への支援を議論する会議に出席した福田さん(左端)